

着衣着火防止のポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろの奥に、物を置かないようにしましょう。
- こんろのまわりは、整理整頓をしましょう。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書を、よく読んで正しく使いましょう。
- 金属製湯たんぽは、直接火にかけると危険です。



防災品を使いましょう!

火が接しても着火しにくい防災品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。

(例)



このラベルが目印!

*一人暮らしのお年寄りへのプレゼントにもおススメです!!

もし着衣に火が着いてしまったら..

脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、
119番通報を行いましょ!!

問合せ先 東京消防庁防災安全課 電話番号03-3212-2111 内線4196

平成30年10月発行

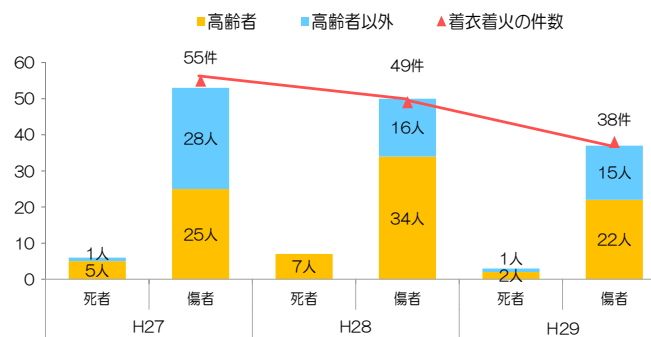
STOP! 着衣着火

東京消防庁

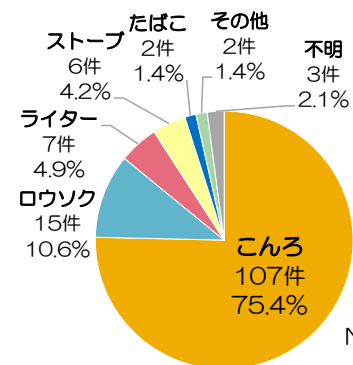
着衣着火による高齢者の死者が多発!

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。平成29年の着衣着火による火災件数は38件発生し、昨年と比較すると11件減少しています。

また、平成29年の着衣着火による死者数は3人と昨年と比較すると4人減少しています。



着衣着火件数・死者数・傷者数 (H27~H29 住宅内 自損は除く)



着衣着火件数のうち、こんろを出火原因とする火災が、約7割を占めています。

→ こんろによる火災の事例は、次ページをご覧ください。

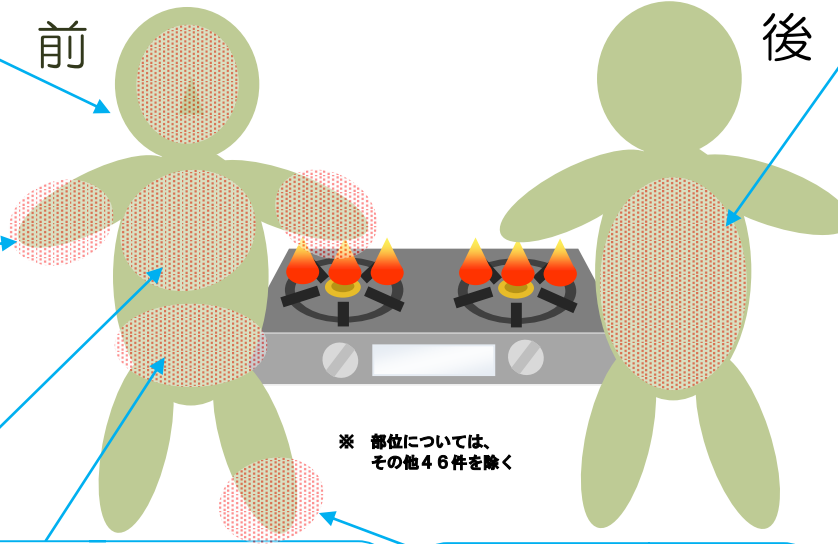
出火原因別着衣着火件数 (H27~H29 住宅内 自損は除く)

こんろによる着衣着火

過去3年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します。(平成27~29年 全142件 死者16人 傷者116人)

前

後



※ 部位については、
その他46件を除く

顔 (3人)

女性60代は、炒めものをしている際に、首に巻いたスカーフがこんろの火に接触、着火し、受傷した(重篤)。

手、腕 (36人)

- ① 女性60代は、こんろで調理をしていた際に、調理台の奥にあるコップを取るため、手を伸ばしたところシャツの袖に引火し、受傷した(軽症)。
- ② 男性40代は、鍋を火にかけて煮込んでいた際に、壁面の汚れが気になり、掃除をはじめたところ、着衣に着火し、手で消そうとしたため、手部を受傷した(軽症)。

胸部 (10人)

女性50代は、調理中にガステーブルの奥の調味料を取るため、手を伸ばした際に、着衣に着火し、受傷した(軽症)。

腹部 (4人)

女性70代は、調理中に換気のため窓を開けようと手を伸ばした際に、ニット製の着衣の腹部に着火し、受傷した(中等症)。

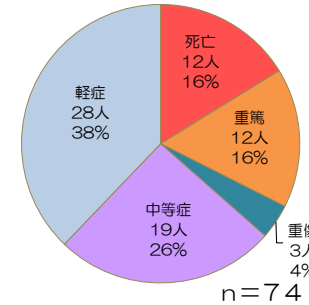
足部 (2人)

女性90代は、カセットこんろで暖をとっていたところ、着衣が火に触れて着火し、受傷した(重篤)。

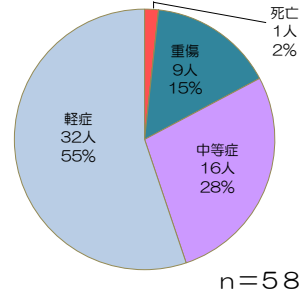
背部 (15人)

男性60代は、やかんを火にかけ、沸騰するのを待ため、こんろに背を向けた際に、着衣の背部に着火し、受傷した(重症)。

高齢者は素早い消火ができず、重症化してしまう場合が多くあります。



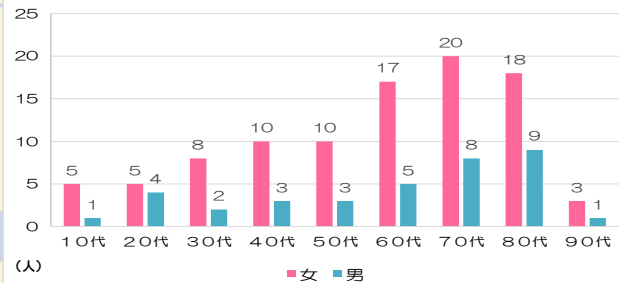
受傷程度別死傷者数 (65歳以上)



受傷程度別死傷者数 (65歳未満)

こんろによる着衣着火を性別で見ると、女性は男性の2倍以上の人数で発生しています。また、年齢では、70代が最も多く、40代から80代の間で多く発生しています。

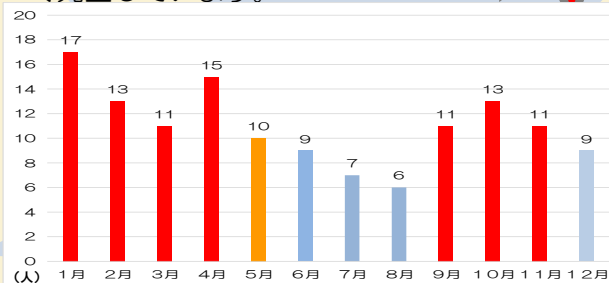
女性に多い



【性別・年齢】

こんろによる着衣着火は、厚着をする冬場や、服装の変化する季節の変わり目に多く発生しており、特に1月に多く発生しています。

生活・服装の変化



【発生月】

着衣着火防止のポイントは裏面をチェック!

